

2019年度 日本臨床検査自動化学会 第2回生理検査委員会 議事録

日時：2019年10月4日 13時～13時50分

場所：パシフィコ横浜 会議室511

出席者：古川泰司、竹内正明、大村直子

欠席者：東條尚子、尾本きよか、湯本真人

オブザーバー：岡野智子、田邊晃子

報告事項

1. 前回議事録の確認

2. 本大会でのシンポジウムについて

同日9時11時の、「生理機能検査の精度管理—ISO 15189 認定範囲を中心に—」は、本委員会の起案によって、開催された初めてのシンポジウムであり、多数の参加者および、活発な討議が行われたことが報告された。本領域の活動について、国内各検査室の関心の高さがうかがわれた。

3. 委員確認・新任委員について

第1回委員会は、参加者過半数に満たず、実質的な討議ができなかったため、新任委員推薦が行えなかったが、上述シンポジウムの演者には委員就任をお願いする方向で、議論されていた。今回委員会に、委員就任前の2名の演者（1名は既に理事会推薦済み）の方にオブザーバー参加いただき、活動内容の共有をお願いする事で、賛同を得ていることを報告した。

審議事項

1. 委員会活動方針について

- i. 議事録にも記載があるが、委員内諾依頼時のメールを再度委員閲覧いただき、本委員会発足時の、活動イメージの確認をお願いした。委員より、特段の追加意見はなかった。
- ii. 委員会内規について、第一回委員会で用意していた原案を、委員に配布した。メール、次回委員会で、議論することとし、概ね次回大会までに、内規案としてとりまとめることとされた。
- iii. 活動分野設定については、当面ISO15189認定4分野について本委員会で扱うことが承認されたが、概ね2年後をめどに、生理検査室全般が扱う検査について、活動範囲を広げる事が望ましいとの意見が出された。具体的には、血圧・脈波（血管機能検査）の業務は、多くの検査室で相当のウエイトを占める業務となっており、適切な時期に活動範囲に含む事が望まれるとの意見がだされ、承認された。

各分野における活動内容として、第1回委員会では、①施設間精度管理事業、②自動化実態

調査、③その他、を挙げていたが、概ね適切と判断された。

2. 新任委員推薦について

現行 4 分野について、新任委員のリクルートをお願いする事です承された。また、本学会の委員会活動として、ベンダーから委員を募りたいという意見は了承された。

また、次回大会までは、現行の分野委員リクルートを続けるが、中期的には、血圧・脈波領域での委員リクルートを行う事は了承された。

3. 今後の活動について

第 34 回春季セミナー、第 52 回大会の日程確認と、同時の委員会開催が確認された。また、今回のシンポジウムでの、質疑応答内容を踏まえ、委員会活動の実態調査に相当する活動として、ISO15189 で生理機能検査の認定取得を得ている 105 施設について、精度管理業務に係わる委員会アンケートを行うことが提案された。アンケート内容としては、各施設の、内部・外部精度管理活動の実態（実際に何を行っているか）、認定取得前後で精度管理業務の構築・評価で変わったこと、本委員会に期待すること、等を盛り込み、アンケート文面を概ね年内に作成することが提案され、承認された。

追記：当日確認を怠ったが、アンケート文面は、メール稟議で、委員間で共有するのが適当と考える

その後の希望的予定としては、年明けのアンケート実行、春季セミナーでの一次集計報告、そして、来年の大会でアンケート結果に基づく、セミナー・シンポジウムを行うことが提案された。進行状況を見ながら、以後メール連絡で、決定していくことが承認された。

アンケート対象施設として、現在生理機能検査の認定取得を得ている 105 施設が適切かという議論があった。特に、更新・拡大審査を予定している施設、これから、ISO15189 認定をとろうとしている施設については、同時のアンケート施行が望ましいとの意見があった。しかし、来年までに行う集計作業などを鑑み、今回は認定取得施設に対するアンケートを行うという方針で、決議した。

追記：この後の、委員長会議・臨時社員総会で、次回 52 回大会では、“生理機能検査と検体検査の合同の意義”、を主題にしたシンポジウムが、次期会頭から提案されていることが確認された。そこで、委員長として、アンケートに係わる発信の場としては、学会のセミナーの形で行うことを提案し、次回会頭より同方向について前向きな意見を頂いている。

4. その他

今後の委員会関連イベントとして、日本臨床検査医学会・第 66 回学術集会 共催シンポジウムについて紹介された。

(文責：古川泰司)